

## 第19回国際患肢温存学会を開催して

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-12-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: TSUCHIYA, Hiroyuki メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/00049380">http://hdl.handle.net/2297/00049380</a>

## 『学会開催報告』

第19回国際患肢温存学会を開催して  
19th International Society of Limb Salvage  
General Meeting金沢大学医薬保健研究域医学系整形外科学  
土屋弘行

この度、平成29年5月10日～12日に、石川県金沢市ホテル日航金沢を会場に、第19回国際患肢温存学会を開催させていただきました。皆様のご支援をいただき、無事、成功裏に終わることができました。

日本で本学会が開催されるのは、1987年に京都で開催されて以来、30年ぶりとなります。本学会は、骨軟部腫瘍を対象とした単独開催の学会の中では、世界最大規模を誇るものであり、今回は750を超える演題の採用を行い、49カ国から全体で1200名を超える方々にご参加いただくことができました。Podium sessionでは発表を19のテーマに分けてプログラムを作成し、各セッションの冒頭には、各分野の第一人者にshort lectureを行っていただきました。このレクチャーにより、その分野の最新の知見、あるいは現在の問題点を浮き彫りにしていただき、引き続き行う各演題発表でより深いdiscussionへ繋がったものと思います。第1日には、ISOLS理事長より、“The Education of Musculoskeletal Oncologists: Best practices and lessons learned”という特別講演をしていただきました。そして第2日には、ISOLS and Iと題して、これまで骨軟部腫瘍に対する治療法の発展に多大な貢献をされてきた先生方に、骨軟部腫瘍治療の歴史とご自身の関わりを振り返っていただきました。人生の多くを、骨軟部腫瘍治療の発展に捧げてこられた諸先輩の思いを聞いていただくことで、これからの骨軟部腫瘍研究と治療の発展のヒントに繋がったのではないかと思います。第3日には、ケースカンファランスとして、具体的な症例を提示しながら、世界各地域を代表する先生がたとともに、治療法のdiscussionを行いました。国際的には、社会的背景などにより、画一的な治療を行うことが困難な国も多く、希少がんである骨軟部腫瘍の治療においては、画一的な知識に囚われず、様々な発想で治療を行うことが重要となってきます。そしてこの創造力こそが、これからの骨軟部腫瘍治療のさらなる発展に、欠かさざるべき重要な要素であると考えます。学会自体は国際学会ということもあり、全て英語での対応となりました。通常国内で行われる場合には、同時通訳が付くこともあるかと思いますが、本学会は同時通訳をつけず、すべてのセッションで活発なご討議をいただくと同時に、大幅な遅れもなく円滑に進行させることができました。

金沢は東京や大阪といったメトロポリタンではありませんが、日本文化を色濃く残す町として、年間800万人以上の観光客が訪れる一大観光都市です。武士の時代(江戸時代)には、東京、大阪、京都に次ぐ人口を誇り、食、工芸、美術などが独自に発展し、百万石文化として花開きました。また第二次世界大戦の戦禍を免れた唯一の県

で、古い町並みも残されており、巨大都市にはない真の日本文化を、衣・食・住にわたり触れていただくことができます。周囲の自然にも恵まれ、日本海から直送される魚介でつくられたすしや天ぷら、自然の伏流水から生み出される日本酒など、より洗練された日本食を楽しんでいただけます。学会のwelcome reception, gala dinner, そしてexcursionなどは、日本の自然や文化に触れていただけるよう、趣向を凝らした構成としました。

初日の夜に行わ全員懇親会は、しいのき迎賓館で開催しました。参加者には、石川門前でバスを降車していただき、その後金沢場内を通り抜けてもらい、しいのき迎賓館前の庭を使って、和太鼓と越中おわら節を楽しんでいただく予定としました。あいにくの雨のため、一部の参加者は金沢城内の散策はできませんでしたが、多くの方々が、しいのき迎賓館での催し物を満喫していただき、大変盛り上がったのではないかと思います。また最終日の夜には、学会会場にてGala dinnerを開催いたしました。最終日にもかかわらず、450名を超えるご参加をいただき、学会の締めとしてふさわしい大宴会となりました。催し物として、金沢芸子集に長唄をご披露いただき、各テーブルで日本風にお酌をしていただきました。また会の中盤では、国別対抗のカラオケ大会を開催しました。日本をはじめ、アメリカ、ブラジル、中国、タイ、オランダ、オーストラリア、イタリア、イギリスなど参加いただき、大変な盛り上がりとなりました。宴会はその後盛り上がりがおさまらず、最後の参加者が宴会場をあとにしたのは深夜0時を過ぎてしまいました。

最後になりましたが、本学会に参加いただきました皆様、また学会を開催するにあたりご協力いただきました石川県、金沢市、企業、金沢大学十全医学会、金沢大学整形外科同門会、医局スタッフの皆様深く感謝いたします。

